三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第　5　号

昭和58年2月15日発行
編集者　田代茂年
発　行　北里大学水産学部同窓会
（連絡先）
〒150　東京都渋谷区恵比寿3－39－2（長屋）
振替口座　第一勧業銀行大手町支店　008－1182388

「十年を振りかえって」

三水会々長　長屋信博

我々が巣立った水産学部は、昨年の春で昭和四十七年の学部創設から満十周年を迎え、八月には多数の関係者のご参集のもとに記念式典が盛大に催されました。

私達卒業生としても心からお祝いいたしますとともに、これまで学部の発展に寄与された大学の先生方をはじめとする関係各位並びに地元の方々のご尽力に対し厚くお礼申しあげたいと思います。

本会の会員である水産学部の卒業生も昨年三月の七期生の卒業により一千名を超え、それぞれ巾広い分野で活躍されています。そして除々に仕事の責任も重くなり、多忙な日々の中で過去を振り返る暇さえない方も少なくないと思いますが、水産学部が十周年を迎えたこの機会に、それぞれの十年を想い起こして見てはいかがでしょうか。色々の想い出やいくつかの転機が想い出されることと思います。私達はそのうちの三年間を同じ三陸の地で学び、過ごし、様々な貴重な経験と仲間を得ました。海を目前にしての実践的な学問、熱意ある先生方の指導、先生方との交流、地元の方々の温い思いやり、そして我々をなごませてくれた自然と、どれをとっても、華かさはなかったものの、都会の大学では得ることのできなかったものであろうと思います。

今、我々は三陸で得たこれらの経験をもとに、それぞれの分野でがんばっていますが、大学の草創期に学び、社会に巣立った我々には頼りにする先輩もなく、困難も多い訳ですが、我々同志助け合い、今後も毎年卒業してくる後輩のためにもがんばっていかなければなりません。

私はこのような貴重な経験と仲間を与えてくれた三陸の地を第二の故郷と思っています。今でも毎年帰郷していますが、美しい自然と地元の方々の温い心は何も変っておらず、私を十年前に戻してくれる思いがします。皆さんも時々は帰郷してはいかがですか。そして昔を振り返り、また新たな時に向けて、それぞれの道でがんばって行こうではありませんか。私達が社会で活躍することがお世話になった先生方や地元の方々への一番の恩返しと思います。

水産学部満十周年を迎えて

学長　松浦文雄

三水会々員の諸君には、いよいよ元気にご活躍のことと思います。

さて、昨年の春をもって、水産学部は開学部満十周年を迎え、さる八月一日その記念行事が催されました。まことにご同慶の至りであります。

西山学園理事長を始めとして教職員は元より、池田会長始めＰＰＡの諸氏、柴同窓会長、長屋三水会長ほか本学同窓会役員、三水会々員の諸君、また地元朝野の諸氏等、実に四百名に上る多数の方々をお迎えして、和やかなうちにも頗る盛大な記念式典ならびに祝賀会が執り行なわれました。

折柄暑中しかも中には遠方より遙遙この祝いにおいで下さった方々も少なくありません。唯々、感謝のほかはありません。ことに、行楽季節で交通事情もままならず、車を連ねて馳せ参せられた同窓諸兄姉の顔を見た時の嬉しさはまた一入でした。

十年の歴史は長いとは申せませんが、この間、卒業生を世に送ること七回、その総数は千名を超えるに至りました。また、今春水産学博士の第一号が誕生しました。ここに水産学部は名実ともに完成の域に達したのであります。これをもって北里大学は、五学部すべてが博士課程の設置を完了して、いわゆる大学院大学の偉容を整えるに至りました。

水産学部の教職員の一人として、また大学に職を奉する者の一人として大きな喜びと感激を覚えます。

この記念すべき日を迎えるに当って、私は、改めて水産学部の成り立ちや生長のあとを偲び、将来の進むべき道を考える機会を与えられました。

水産学部開設時の昭和四十七年の春は恰かも北里大学創立満十年に当り、これを記念して当時「北里大学十年史」が編さんされております。これを読みますと、水産学部が全学の協力は申すまでもなく、岩手県や三陸町を始めとする地元の方々、ことに漁業関係団体の方々からいかに大きな支援を受け、興望を担って創設されるに至ったか、その経緯を詳しく知ることができます。この度の記念行事についても地元から多大のご援助を頂きました。今に淪らぬ暖いご支持に感謝の念を禁じ得ません。私は、泌々と大学のもつ社会的使命というものを痛感させられます。

開学部以来今日に至る十年の歩みは、必ずしも順調な時ばかりではありませんでした。開学部の翌年には逸早く第一次オイルショックが見舞い、経済低成長時代への移行の端緒となりました。また、わが漁業界を大混乱に陥れた二百浬時代の幕明けは、学部創業も半ば昭和五十二年の春のことでありました。これに加えて屢次の風、水害、地震等の自然災害もまた記憶に新たなものがあります。寧ろ、試錬の連続でありました。

これら諸々の困難に堪えてよく今日の姿を築き得たのは、当時の理事長兼学長長木先生や、ことに東北担当理事として文字通り身魂を傾注された椿先生のご指導と、教職員挙げての一致協力、奮闘努力の賜にほかなりません。さらに、凡ゆる困苦欠乏に堪えて勉学生活に励み、三陸の地に新しい学生文化の建設を目指して努力された、今は三水会々員諸君の功を忘れることはできません。

このようにして水産学部創業の功は成りました。次の十年の発展を目指す新たな歩みが今始まろうとしています。粒々辛苦の末築き上げられた学部の地歩を不動のものとし、さらに一層の充実発展を図るべき責務が私達に課せられていると思えば、新たな緊張を覚えます。

わが国の水産業を繞る諸情勢は真に厳しいものがあります。しかし、水産物はわが国で唯一の自給可能の食糧資源です。水産生産確保の重要性は未来永却変ることはありません。今こそ水産学の出番であります。二百浬時代の到来は、夙に「獲る漁業から育てる漁業へ」の転換を必至と考え、水産生物の増養殖と漁獲物の合理的利用を目標とした学部設置の理念の正しかったことを示したものといえましょう。学部発展の原動力は正にここにあります。私達は、この理念を堅持し、優れた立地条件を十二分に活用して学本の伝統的精神、実学的精神をもって水産学教育・研究の一層の質的充実と向上に努めなければならないと考えます。

昨今の政治・経済等社会の動向は全く逆賭し難い情勢となってきました。これが教育界に影響を及ぼさぬ

筈はありません。私学は、その経営上相当厳しい状況下に置かれるものと覚悟すべきでしょう。この困難を克服するには、経営努力もさることながら、大学が社会の評価に堪える実力と名声を克ち取ることが肝要と思います。

教育・研究機関としての大学の評価は、当然のことながら、卒業生諸君の社会での活動状況と、大学の研究活動を通じての学術的、社会的貢献度の如何によって定まります。幸い、本学には研究を重んずる伝統があります。水産学部のユニークな研究が世の注目を浴びていることは心強い限りであります。優れた先生達による、研究的雰囲気の中の専門的教育が、優れた人材養成の実を結ばぬ道理はないと思います。況して、北里精神と、三陸生活によって人間的にも鍛え抜かれた諸君の、いよいよ働き盛りに入ろうとする今後の活躍こそが私達の無上の楽しみであり、そこに絶大な期待をかけております。

今後共、母校のため絶大なご応援をお願いいたします。私達も諸君の母校として恥かしからぬ存在たるべく懸命の努力をいたす所存です。

終りに、三水会諸兄姉の一層のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

学部設立十周年を迎えて

水産学部長　藤野和男

過日、本会報への寄稿を依頼されましたので、学部十年の想い出、近況、そして今后のことなど思いつくまゝ記します。

先づ、去る八月一日、本学部体育館において三水会々員二十数名を含む学園内外から三百五十余のご来賓をお迎えして学部設立十周年記念式典と祝賀会を盛大裏に無事済ますことが出来ましたこと、また、その節記念として同窓会とPPAから寄贈載きました学祖北里柴三郎博士の胸像を図書館ホールに置くことに致したことを報告申上げます。

さて、昭和五十一年三月第一期生が卒業してから学部設立満十年に当る昨年三月迄に卒業生総数は一、〇六一名(水産増殖学科六四四名、水産食品学科四一七名)、また、大学院修士・博士の学位を得た諸君は、それぞれ一三および一名となりました。

最近、三陸キャンパスでの目に映る変化は、グラウンド南端に完成した全天候型テニスコートと図書館前庭の環境整備でしょう。小壁漁場に通ずる道路の拡巾改良工事は三年目に当り、今春には舗装道が完成予定の由です。学部における教学十年の足跡は、最近上梓に至った「北里大学水産学部十年史」中に具さに記されています。

過ぎて見れば寸刻と感じられる十年の歳月も、しばし眼を閉じると走馬燈の様に蘇って参ります。私事に及んで恐縮ですが、私が始めて水産学部設置計画を知りましたのは、七年余在勤したハワイ州ホノルル市にある米国々立水産研究所を間もなく退職し帰国致そうかと考えて居た昭和四六年夏の事で、本学部設置の為に当初からご尽力下さった当時の東京大学日比谷京教授からの一通の書簡でありました。家族を一足先に送り出し、残務整理を済ませて九月末に帰国。間もなく、意志決定の参考の為現地を見ようと思い立って東京から車で国道四号を、途中一泊二日がかりで始めて越喜来の地に着いたのは秋も深まった十一月初旬のある日の日没後でした。崎浜の刈谷旅館に泊り、翌朝、烏頭の校地に行って見ると現在の第一校舎が出来た許りで、周辺では土地造成中のブルドーザーが唸りを立てゝいました。国道四五号はそれより数年前に開催された岩手国体のお蔭で舗装され可なり整備されてはいたものの三陸町の道路は狭隘、未舗装で、浦浜では現在の町役場前の立派な道路はなく、消防署、小学校、そして今の岬荘の辺りを迂回した様に記憶しています。東北自動車道に引続いて東北新幹線が開通した今日往時を想うと、正に今昔の感深いものがあります。

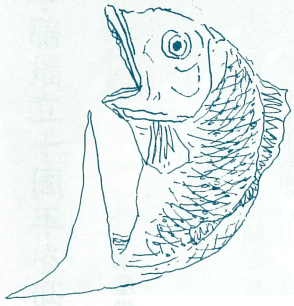
さて、水産学部は、この十年で学部としての教学態勢を漸く整えるに至ったと言って差支えないでしょう。別の表現をとって、三陸キャンパスの教職員は、学生諸君共々この十年間を学部作りに夢中で過ごして来たと申したら、いささかオーバーでしょうか？

激動する国際・国内、そして大学を取巻く諸情勢の下で十年の足跡を顧るとき、今後の主要課題が自ら浮び上って参る様に思われます。先づ基本的なことは、ライフサイエンス

を唱う総合大学の一学部としての使命の原点に立ち、先見性に裏附けされた展望と地道な努力の必要性でしょう。水産増殖と水産食品二学科から成る本学部の使命とは、言って見れば「元来、自然状態下で繁殖・生育を繰返す野生の水産動植物を人の管理によって効率的に生産性向上を計り、またその様にして再生産される生物資源を、食糧を含む人類の多様な用に供する為の基礎・応用両面に亘る教育・研究を行うこと」と申せましょう。この使命の具現・実践の段階で、次の三点に対する配慮が緊要と存じます。即ち、(1)大学の公共性、(2)国際的視野と国際的責任、そして(3)地域社会との交流・協調の増進です。(1)については既に「同窓会報」（近刊）中に提起しましたので、ここでは省略します。(2)については、近年、日本の経済発展に伴う美食嗜好追求の波に押されて、とかく薄れがちな人類にとって長期的かつ国際的課題でもある食糧の安定供給に対する奉仕の心と責任感でありましょう。そして(3)では、地域社会との交流の接点を学部レベルで積極的に多様化して相互理解を深め、実質的協力関係の増進を図ることが出来ればと願っています。

所で、大変申し遅れましたが、過日、北里学園二十周年記念として、水産学部に対しましても皆様方から図書等充実の為で寄附を頂きまして誠に有難う存じました。先日、学部の意向として学術情報入手用端末機を含む図書充実の実施方針が決り、昭和五七年度補正予算案中に計上致しましたことを報告申上げます。

以上、学部設立十周年に当り、抱負の一端を述べさせて頂きました。今后、これらの線に沿って微力乍ら地道な努力を積み重ねて参る所存です。折にふれ、具体的な事に関してご支援をお願い申上げることもあるかと存じます。その折はどうぞ宣しく。最后に、三水会々員諸氏の一層のご活躍を期待致しますと共に、後輩の進路開拓への格段のご支援をお願いし、学部長就任の挨拶に代える次第です。



「昭和五十七年度三水会総会」報告

「昭和五十七年度三水会総会」が去る五月九日（日）北里本館大会議室に於いて開催され、次の事項について審議決定されました。

一、代議員の選任

五十六年度卒業の七期生より左記の代議員が選任された。

代議員

関　昌志（七期・増殖）
外山　弘（〃　〃）
林　敬三（〃　〃）
清　康一（〃　食品）
砂原　誠一（〃　〃）
小林　昇（〃　〃）

二、五十六年度事業報告

(一)、会報発行

昭和五十六年十月と昭和五十七年四月に会報を発行した。三水会々員名簿を会報と共に送付した。

(二)、同窓会名簿の配布

昭和五十七年三月に全学同窓会名簿を一期生、二期生に配布した。

(三)、就職ガイダンスの開催

昭和五十六年七月に就職ガイダンスを三陸校舎にて行なった。本年度は教育、市場、環境調査関係の三名に協力願った。

(四)、学友会助成

大学祭、体育祭並びに体育会、文化会に対し助成金を交付した。

(五)、同期会等の助成

本年度は二つの卒業生の集会に対し助成金を交付した。

(六)、水産学部十周年記念事業に対する援助

水産学部に対し太鼓を寄贈した。

(七)、卒業生の現況の把握

調査カードを送付し、現況の把握に努めた。

三、五十六年度決算案の承認

田中常任理事より、五十六年度決算案について報告がなされた。

以上について、佐々木監事により監査結果が報告され、承認された。

四、五十七年度事業計画の承認

説明の後、以下の計画案について、承認された。

(一)、会報の発行

同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を年度内に二回発行する。

(二)、同窓会名簿の配布

全学同窓会名簿を第三期生に配布する。

(三)、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを、水産学部生を対象に三陸校舎にて行なう。

(四)、学友会助成

クラブの活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。

(五)、同期会等の助成

同期会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

(六)、講演会の開催

学術的な発表、大学の現況等について、水産学部の先生方にご講演していただく会を白金校舎にて開催する。

(七)、水産学部十周年記念式典関係行事の実施

水産学部十周年記念式典にあわせたバス旅行を企画し、卒業生の懇親の場とする。

(八)、卒業生の現況の把握

調査カードを全卒業生に送付し、現況の把握に努める。

五、五十七年度予算案の承認

説明の後、原案通り承認された。

六、その他

長屋会長より、代議員、理事の選出方法について話があり、後日選出方法等について検討される事となった。

閉会後、昼食を取り引き続き同大会議室に於いて「先生を囲む会」を開催いたしました。今回は松浦先生から「北里柴三郎学祖の歩んだ道」について、井田先生から「サケ・マス属の分類研究」についてご講演していただきました。

このあと同会館食堂に於いて、松浦学長、井田助教授を囲んで懇親会が開かれ、盛況でありました。

昭和56年度三水会収支決算書

支出の部			収入の部		
科目	実績	予算	科目	実績	予算
1. 事業費			1.1~6期生終身会費	535,000	600,000
(1)会報発行費	533,300	350,000	2.部会助成金	1,480,000	1,480,000
(2)同窓会名簿配布費	66,000	90,000	3.受入利息	23,534	
(3)就職ガイダンス費用	71,810	150,000	4.前年度繰越金	1,035,809	1,035,809
(4)学友会助成費	250,000	300,000			
(5)同期会助成費	20,000	100,000			
(6)10周年記念事業費	200,000	200,000			
(7)卒業生の現況調査費	41,400	50,000			
2. 運営費					
(1)印刷通信費	41,560	50,000			
(2)会議費	121,876	150,000			
(3)総会費	155,730	200,000			
(4)事務費	13,860	50,000			
(5)次年度繰越金	1,558,807				
(予備費)		1,425,809			
合計	3,074,343	3,115,809		3,074,343	3,115,809

昭和57年度三水会予算(案)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
1. 事業費		1.1~7期生終身会費	500,000
(1)会報発行費	500,000	2.部会助成金	1,340,000
(2)同窓会名簿配布費	60,000	3.前年度繰越金	1,558,807
(3)就職ガイダンス費用	150,000	4.受入利息	60,000
(4)学友会助成金	300,000		
(5)同期会等助成費	100,000		
(6)10周年記念式典関係費	100,000		
(7)講演会費用	50,000		
(8)卒業生の現況調査費	50,000		
2. 運営費			
(1)印刷通信費	50,000		
(2)会議費	150,000		
(3)総会費	200,000		
(4)事務費	10,000		
(5)予備費	738,807		
3. 積立金	1,000,000		
合計	3,458,807		3,458,807

研究室の近況

水産衛生学研究室の近況

教授　神谷久男

三陸に水産学部が設置されてから十年、さる八月一日には記念祝賀会が盛大に催され、三水会の会員の皆様にも遠路ご参加頂きました。水産衛生学研究室もこの十年の間に創立当初と大きく変ってきておりますので、最近の研究室の様子をご紹介することにしたいと思います。

五回生以上の皆さんには、未だお目にかかる機会もありませんでしたので、まず自己紹介からはじめることにします。私は五十四年十月に十年ほどおりました東大農学部を退職し、当研究室に参りました。その後、教授の佐藤良裕先生が一身上の都合で、五十五年六月にご退職になられたため、五十六年四月より衛生学研究室を担当することになりました。また、助手の斉藤博司先生も同年四月、ご希望により水産微生物学研究室へ移られました。同じく研究室の及川よう子さん（ご結婚されて今は柳本さん）も業務が増え、人手が足りなくなった図書館へ是非にと望まれて移られております。

その後、研究スタッフに食品学科六回生の緒方京子さん（旧姓加納）が技術職員として五十六年六月に研究室に入られました。また、今年七月には専任講師として村本光二先生が着任されました。村本先生は東北大を卒業後、カルフォルニア大のホルモン研究所に留学されていた新進気鋭の先生です。このように、三年の間に水産衛生学研究室のスタッフはすっかり変ってしまいました。

卒業論文を当研究室で書き、卒業されていった方々には若干さびしい感じがするかも知れません。しかし衛生学研究室には変わりがありませんから、三陸に見える折がありましたら、研究室にも是非、立寄って下さい。

研究室の卒業論文テーマをあげてみますと、

- ○ 海産無脊推動物の凝集素
- ○ 海藻類の凝集素
- ○ アメフラシの静菌素
- ○ 有毒渦鞭毛藻のシストの毒性

などにわけられます。凝集素というのは、赤血球や白血球、あるいは癌細胞などを凝集させるタンパクで、仲々興味深い物質です。今はフジツボ類を主にやっておりますが、四年生諸君は大学下の磯で、注射器片手に何時間もフジツボの体液採集に取組んでいました。アメフラシの卵やリンパ液の採集など、結構磯での採集作業が多いし、顕微鏡をのぞくことも多く、食品学科の卒業論文なのだろうかという声も聞かれます。

また、〃シストの毒性〃は大船渡港の麻ひ性貝毒に関連した研究で、水産増殖学研究室との協同研究の一部をなしています。当研究室は研究テーマの関係上、他研究室との協同研究だけでなく、東北大やら帝京大やらとの協同研究も多く、武者修業にゆかされたり、試料運搬をさせられたりすることもあり、四年生諸君も結構楽しんでいるようです。

運動の方も仲々盛んで、昨年の春には研究室対抗野球大会で見事、優勝の栄に輝きました。ボーリング大会やら秋の旅行など出来る限り全員で遊ぶ機会をみつけました。今年は就職戦線が乱れ、早くから都会に運動にゆく諸君が多く、全員で何かをするという機会がなく少々残念に思ったりしています。〃よく遊び、よく学ぶ〃これが水産衛生学研究室の新しい〃モットウ〃になりつつあります。

漁火祭を思い返して

文化会委員長　渡　辺　宏

今年度の漁火祭は10月の16・17日の土曜日・日曜日に行なわれました。漁火祭も数えるところ10回目となり、私達実行委員会も皆様の期待に応えるべく努力しました。今年のテーマは〝四一三人のワッショイ！〟で、全員の一致団結を謳ったもので毎年恒例の酔仙の樽神輿と掛けたものです。

今年の大きな特徴は、通年、金・土・日曜日としていた日程を土・日曜日とし、メインの一つの〝大漁踊り〟を土曜日にしたことです。これは土曜日の半ドンを狙い、多くの人たちに〝大漁踊り〟を見てもらい〝今、三陸町の北里大で漁火祭をやっているよ！〟というアピールをより強くしようという考慮からでありまして、その結果は予想どうり大変盛況でした。展示・模擬店・その他もがんばってくれました。展示は才二校舎、才三校舎の講義室・実習室を、模擬店は才一校舎前の広場を使いました。それぞれ各団体の個性溢れるものでしたが、展示は、潜水部・生物部が、模擬店ではカニ釣り等が好評を得ていました。その他県内の富士大学とのバスケットボールの試合、軽音楽部コンサート、高崎・混騒会による学生不用品のオークション等々の催しものがありました。

今年は、近年までのものとは違った、常識のワクを、破ったものが多かった、積極的なものが多かったように思われます。

また今年は才10回を記念した手拭いも作り三陸だけでなく、白金・相模原などからも引き合いがある程好評でした。

最後にこの場をかりて、実行委員の諸君とそれを理解していただいた教授・職員の皆様、そしてこれらを支えていただいたOBの皆様、三水会の皆様、地元の皆様、その他の方々に深く感謝し、御礼を申し上げます。

水産学部体育会委員長として

才10期委員長　猿　田　昌　広

水産学部体育会も、今年で10年目となり、所属団体数も25を越え、他大学と比較しても決してひけをとらない数の団体で構成されている。

しかしながら、すでに御承知の先輩諸氏も多いと思うが、水産学部北里会という組織団体が、規模が小さく、人員・設備・金銭面等、他学部、他大学に比較して厳しい状況におかれている。

さらに、最近の傾向として、無気力というか消極的というか、学生生活に意義も主張も感じさせない、つまり、何となく、といった人間の増加が目立ってきたように思う。

これは、10年を経過した水産学部が転換期を迎えた為であるかも知れないし、また世代の違いであるのかもしれない。

彼等には、彼等なりの、学生生活は存在するが、はたして充実した学生生活というものが、残るのだろうか。自分には何も残らないのではないかと思う。確かに、自分が現在、やっていることが将来、己の糧となるか否かは、わからない。が、それがわかっているならば、もっと賢く生きていられると思う。

なにはともあれ、10年という歴史を伝えてゆき、新しい歴史を築いてゆくのは、我々志気盛んな人間であると自負している。

最後に、自分個人の私的意見に終止し、まとまりのない拙文に目を通していただいた諸兄に、御礼申しあげます。

押忍

アメリカンフットボール部
念願のOB会設立なる!!

水産学部アメリカンフットボール
OB会理事長　飯島　優（旧姓　金子）

OBの皆さんお元気ですか。水産学部も創立10年と聞き、我がアメリカンフットボール部卒業生の有志によってOB会設立の動きが活発になり、昭和五十七年三月二十一日、神奈川県三崎水産高校グラウンドにおいてOB戦を行ないました。初めは卒業生が何人集まるか、OB戦が本当に出来るのか心配でしたが、なんと卒業生17名が参加、雨まじりの天候でしたが現役にはまだまだ負けられないと云う気持とアメラグ万才の熱気でゲームが始まりました。結果はと云うとやはり現役の方がスピード、コンビネーションに勝り34対0で破れましたが、来年は頑張るゾと負けても気概だけはOBの方が、一枚も二枚も上の様に感じました。

その後、鎌倉にて総会を開催、宴会と続きつらい練習の現役時代や三陸でのこと、子供のことにまでも話に花がさき、和やかな一時を送り、また来年やろうと再確認しあった仲間も多く、OBの現役のアメリカンフットボールに対する熱い気持があり有りと伺えました。本当にフットボールをしていて良かったと云う気持で一杯です。

現在、OB会会員数33名、来年はもっともっと楽しい多くの集まりにして行きたいと思っています。

OB会連絡先

会　長　椎谷　信博（三期）
副会長　林　孝（五期）
〃　美馬　俊哉（六期）
幹事長　瀬田　修一（五期）

告示

三水会代議員、及び理事の改選

対象　全ての現職代議員、及び理事。

期日　五十八年度三水会定期総会（本年五月予定）に於いて。

趣旨

三水会も創設以来、来る五十八年四月には満三才を迎え、初代代議員の改選期を迎えようとしております。三水会の運営も軌道に乗ってきた反面、代議員、理事の会議への欠席が目立ち、いつも同じメンバーによる会議が定常化しつつあります。これは、代議員、及びその中から選ばれた理事が、その選任の時期（卒業直後）には、職場の状況を把握できず選任後、職場の事情でどうしても代議員、理事の職務を果たすことが困難となることが多いための様です。

代議員は、総会において三水会会員の意見を代表し、三水会の運営の方針を決定する重要な役割を有し、また代議員の中から選出された理事は、三水会を実際に運営してゆく重責にあるわけですが、これら代議員、理事の内の小数のかたよったメンバーによる運営は三水会の最も基本方針である「全ての会員のための三水会」という大原則をゆるがし、三水会の活動の停滞につながるゆゆしき問題であると言えましょう。

この様な現状を打破すべく、来る五十八年度総会における代議員の改選に際しては、従来行なわれてきた各期毎に八名の代議員を選出するという方法を改め、代議員及び理事の責務を充分に果たすことの可能な会員を推薦していただき、各卒業研究室毎に六名ずつの代議員を選出するという方法に移行いたします。これに伴い、五十八年度総会にはまだ改選期を迎えない、五・六期生代議員についても改選を行ない、改選時期の足並をそろえ三水会の運営の簡素化を計ります。

以上の様に代議員の改選を行なうにあたり、会員の皆様より代議員の推薦（自薦、他薦）を募りますので、推薦する会員の氏名及びご自分の氏名を記入した葉書を三水会宛にお寄せ下さる様お願い申し上げます。

宛先　〒300茨城県土浦市生田町
三―三四　清林荘
大野良樹

〆切　五十八年三月五日